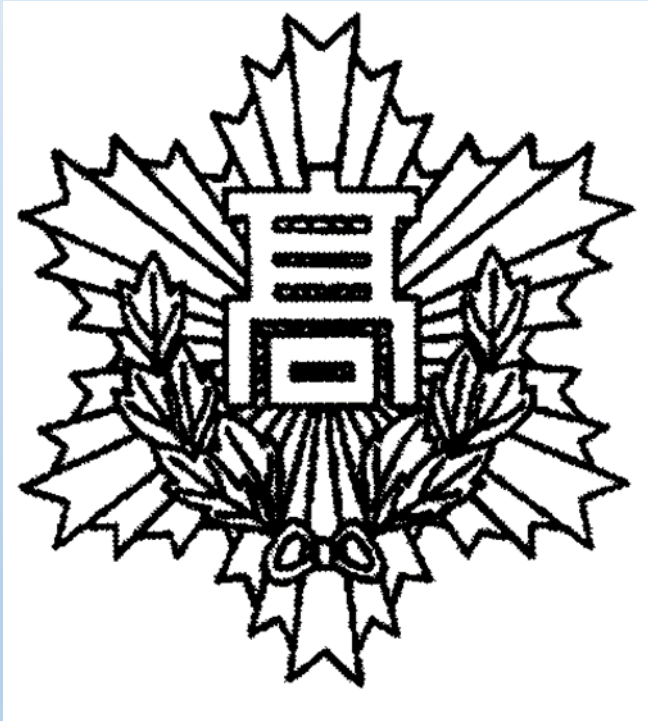


令和4年度

都立新宿高等学校



「令和4年度入試結果等について」
教務部

新宿高等学校について

1 特徴

進学重視型単位制

2 単位制のメリット

- ・教職員が多い。 → **習熟度別・少人数授業に対応できる。**
- ・習熟度少人数に対応した教室が多い。
- ・**3年次の選択科目を多く設定できる。**

3 3年次で理文分け

→ 2年次まで偏らず広く学ぶ。

教育課程について

令和4年度入学生 教育課程編成表

は必修科目。

は自由選択科目。

1年次 芸術Ⅰは音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰの中から1科目を選択。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
現 代 の 国 語			言 語 文 化		公 共		地 理 総 合		歴 史 総 合		数 学 I		数 学 A		化 学 基 礎		体 育		保 健		芸 術 I		英 語 コ ミュ ニ ティ		論 理 ・ 表 現 I		情 報 I		人 間 と 社 会	L H R	英 会 話	ハ ン グ ル	中 国 語	フ ライ ン グ ス	ド イツ 語		

2年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
文 学 国 語			古 典 探 究		日 本 史 探 究		世 界 史 探 究		数 学 II		数 学 B		物 理 基 礎		生 物 基 礎		体 育		保 健		英 語 コ ミュ ニ ティ II		論 理 ・ 表 現 II		家 庭 基 礎		総 合 的 な 探 究 の 時 間	L H R	芸 術 II	英 会 話	ハ ン グ ル	中 国 語	フ ライ ン グ ス	ド イツ 語			

3年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
文 学 国 語			英 語 コ ミュ ニ ティ III		論 理 ・ 表 現 III		体 育	必修選択枠（14単位）														自由選択枠（8単位）								総 合 的 な 探 究 の 時 間	L H R	美 術 等	音 楽 基 礎	演 習			

アドミッションポリシー

- ① 学習成績が優秀であり、入学後も学習に対する向上心を持ち、難関大学への進学を目指す生徒。
- ② 社会や自然に対する幅広い知的興味や探求心を持ち、自ら学び、自ら考え、判断し、表現できることを目指す生徒。
- ③ 挨拶・時間厳守・人の話を聞くこと・きちんとした服装や頭髪など、集団の一員としてのマナーを身に付けている生徒。
- ④ 部活動や生徒会・委員会活動及び奉仕活動などに積極的に取り組んだ経験を持ち、学習との両立を前提に、高校生活においても様々な分野で活躍することに意欲をもつ生徒。

入学者選抜について

◇推薦に基づく選抜

①推薦枠は募集人員(約320名)の10%相当。→32名

②総合点に占める調査書点の割合は50%です。→450点
※45点満点×10

③個人面接を実施し、総合的に評価しました。→180点

④小論文を実施します。自分の考えを論理的に表現する能力等をみることを目的としました。→270点

⑤検査日は1日間でした。

推薦に基づく選抜について（評価の観点）

◆個人面接

- コミュニケーション能力
- 思考力・判断力・表現力
- 協調性・リーダーシップ
- 出願の動機・進路実現に向けた意欲
- 規範意識・生活態度

◆小論文

- 課題を的確に把握し、分析する力
- 課題解決等に向けて論理的に考え、表現する力

昨年度の推薦に基づく選抜のテーマ（参考）

◆小論文

大問1

問1 「日本、アメリカおよびOECD全体の消費者物価指数の推移をまとめた表から読み取れる内容を述べる。」

問2 「日本、アメリカおよびOECD全体の消費者物価指数の動向から生じる懸念に対して、政治・経済・教育のいずれかの分野のリーダーとしての立場で取りうる改善策を述べる。」

大問2

問1 「資料を読み、グラフを作成する。」

問2 「資料を読み、大気中の二酸化炭素濃度の変化の傾向を説明し、その傾向現れる原因を考察して述べる。」

問3 「資料を読み、大気中の二酸化炭素濃度の増加ペースを持続的に和らげる対策を科学・政治・経済のいずれかの分野のリーダーとしての立場で具体的に述べる。」

学力に基づく選抜について

◆調査書（300点）

学力検査を実施する教科 → 1倍

学力検査を実施しない教科 → 2倍

※65点満点を300点に換算する。

◆学力検査（700点）

各教科 100点（国語、数学、英語は自校作成問題）

※500点満点を700点に換算する。

※自校作成問題解説会は12月18日（日）に開催予定。

※ESAT-Jの導入。

昨年度の学力に基づく選抜（データ）

入試概況

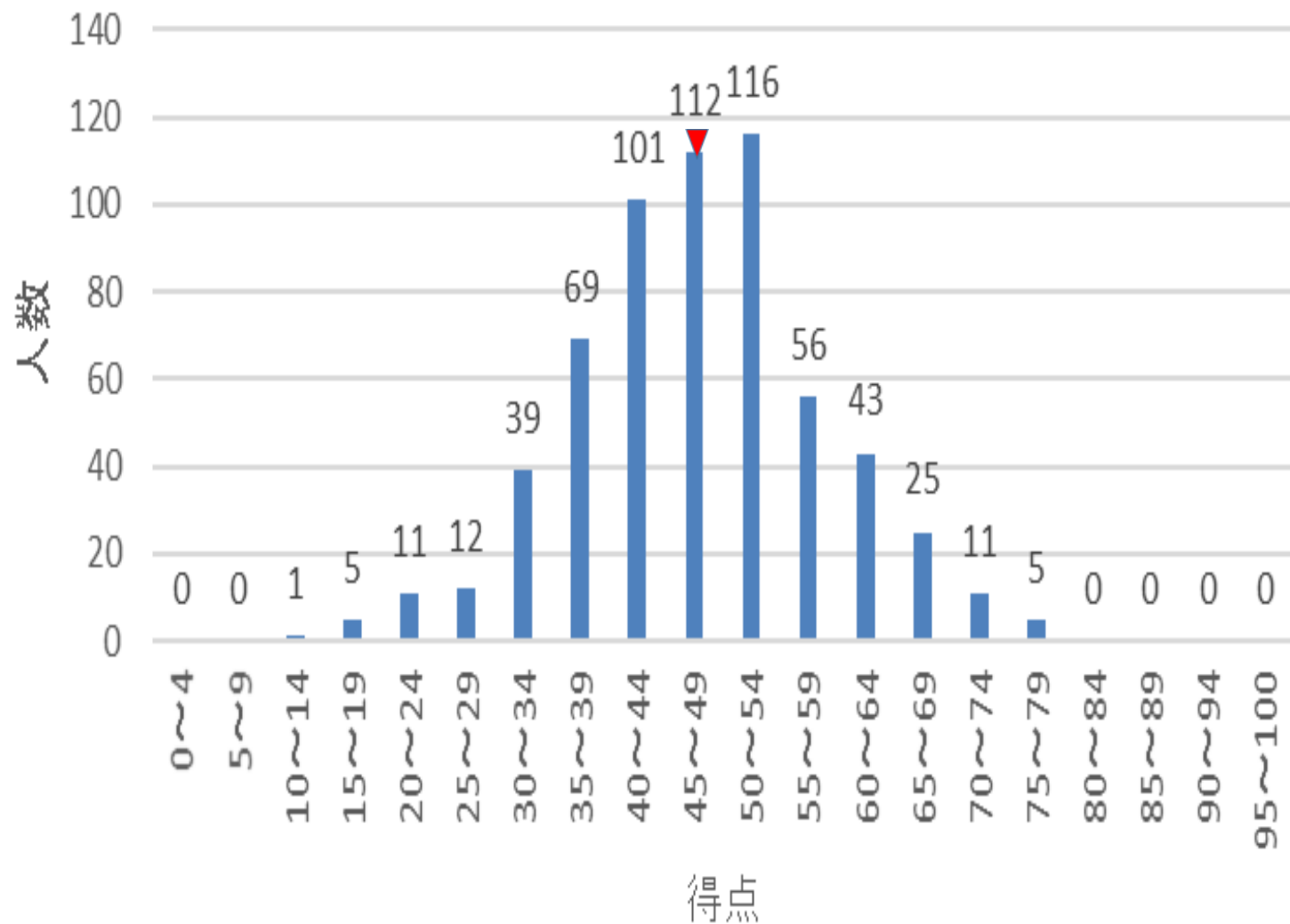
	推薦に基づく選抜			学力に基づく選抜			
	募集	受検者	合格者	募集	応募者	受検者	合格者
男子	32	69	5	284	327	287	143
女子		144	27		343	319	144

推薦入試実質倍率 6.66倍（令和3年度 4.56倍）

学力検査実質倍率 2.11倍（令和3年度 1.69倍）

※実質倍率＝受検者数／合格者数

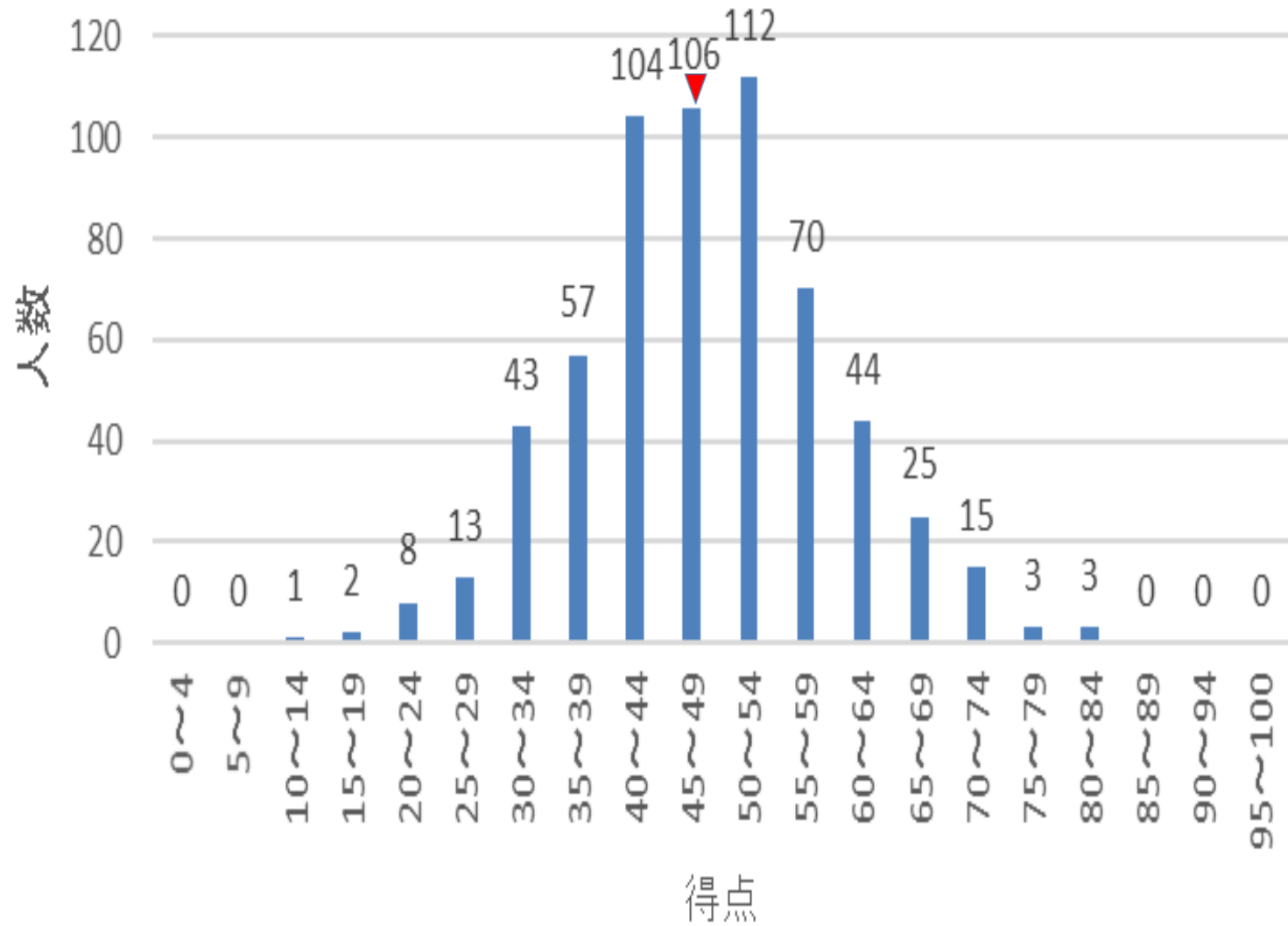
国語



平均点 47.3 点

(昨年度 61.3 点)

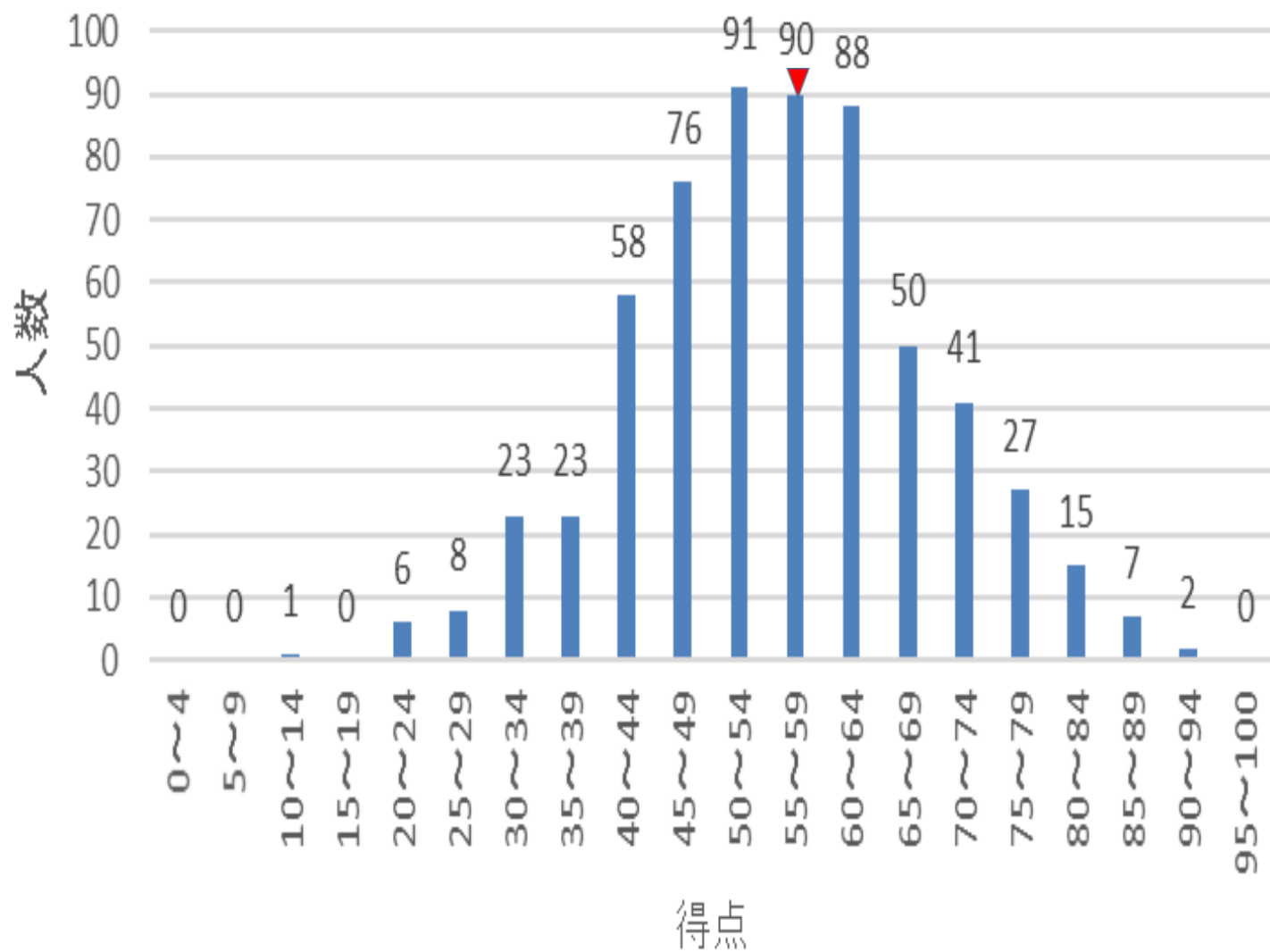
数 学



平均点 48.1 点

(昨年度 49.3 点)

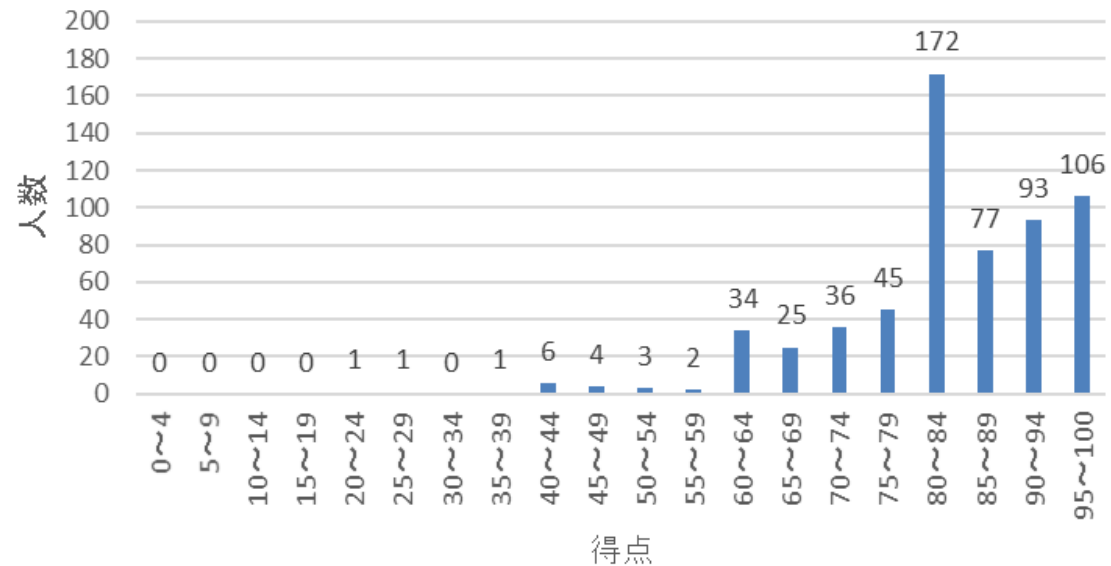
英語



平均点 55.6 点

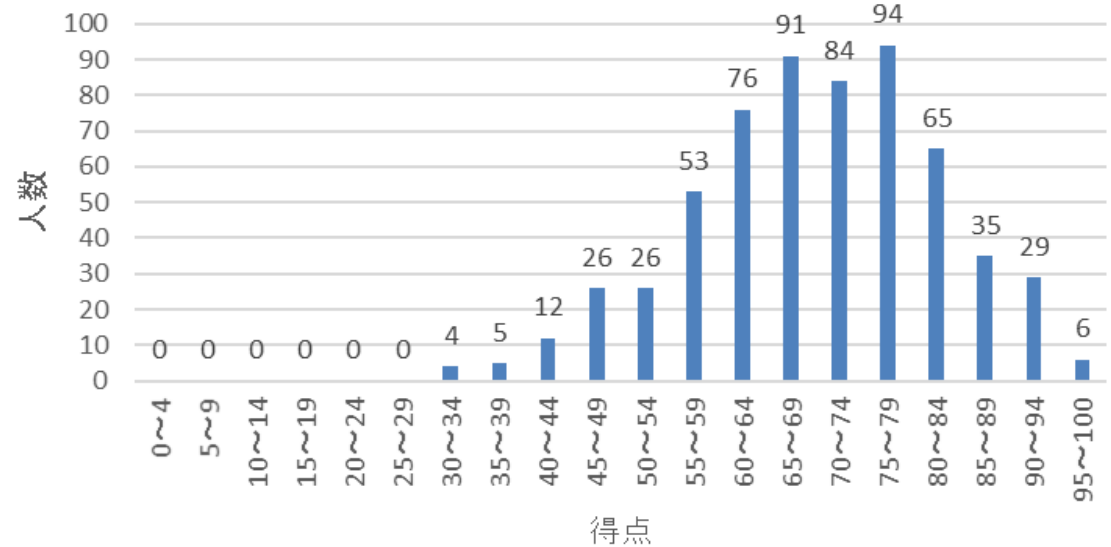
(昨年度 47.2 点)

理科



平均点 83.2 点

社会



平均点 69.0点

データの分析方法（学力）

令和4年度 平均点より

国語 47.3

数学 48.1

英語 55.6

社会 69.0

理科 83.2

調査書

自己PRカード 点数化しない



5教科の合計 303.2 (305)

換算すると → 424.1 . . . ①

調査書点

換算すると → . . . ②

① + ② =

←受験者平均点と予想できる。

中央値と平均値について

データの傾向や特徴を言い表す数値を代表値という。
代表値には**平均値**、**中央値**、**最頻値**があります。

○平均値 = [すべてのデータの値の合計] ÷ [データの個数]。

○中央値 = 「データを小さい順に並べたときの真ん中の値」。

※データの中に外れ値が含まれる場合、平均値は信用できない。

「学力に基づく選抜」の受験生の評定平均は 。

合格者の評定平均は非公表です。

合格最低点は？

実質倍率2.11 より予想してください。

でも、合格最低点を目指さない！！

推薦に基づく選抜について（補足）

調査書点に不安があっても・・・小論文、面接で逆転現象が増えている。
しかし、半分は調査書点であるため、合格者の評価は高い傾向にある。

推薦不合格者の多くが、「学力に基づく選抜」を受検。
そのうち、半数以上が合格。

→ 推薦がだめでも学力試験で逆転を！挑戦！